

暑いですね…。クーラーがいない阿蘇でさえ「暑い」と思うのですから、皆さんは大変な暑さと戦っていらっしゃるのではないのでしょうか。と言いつつ、実は私エリと子供たちは阿蘇より更に涼しい場所に行っておりました。就農10周年のリフレッシュということで、子供たちを連れて、北欧に行ってきたのです。ということで、まずは旅のリポートから始めます。



私の母はベテラン建築士。日本にいるとどこにいても仕事の電話がかかってきて気が休まらない、ということで、親しい友人のいる北欧に度々行っています。それがうらやましくて仕方のない子供たち。数年前から「僕たちも行きたい」という激しいリクエストがあったので、古希を迎えた両親と思い切って行くことになったのです。涼しい中で期待以上にリフレッシュできましたし、エネルギー自給の島にも行って勉強もしてきました。



まずはフィンランドの湖畔にて、自炊しながら魚を釣ったり泳いだり。夕方には薪で暖めたサウナに入り、また泳ぐ。そんな毎日を過ごし、ふだん酷使している体と頭をしっかりと休めました。その間に友人に紹介してもらった農家さんを訪ね、また最後に訪れたデンマークでは農家民宿に泊まり、休養しつつも情報交換。国や文化が違って、同じ思いで農業を楽しみながら続けている同世代や先輩に会えたことは、大きな励みとなりました。



スウェーデンにも3日間滞在し、デザイナーの友人を訪ねたり博物館に行ったりした後、最後にデンマークを訪れました。デンマークは母が60年前に初めてホームステイをした場所で、母にとっては第二の故郷。私も何度か訪れたことがある国です。私がサンタと同じ5歳の時に出会った重度障害をもつ女性、リスさんとはもう長い付き合いです。24時間介護が必要な彼女ですが、ごく普通の賃貸住宅に住み、友達を呼んだり、在宅で仕事をしたりしながら普通に暮らしています。彼女のお宅で、和食を作って食べました。



デンマークのサムソー島(Samsø)は、必要な電気と熱をすべて再生可能なエネルギーで生み出している島。10年かけてこのプロジェクトを実現し、2008年にTIME誌の「環境ヒーロー」に選ばれたソーレン・ハーマンセン(Soren Hermansen)さんと、今年の2月に会ったことが、今回の北欧に行くことになった直接のきっかけです。彼は農家であり、再生可能なエネルギー事業の推進者。その彼が「夏においで」と私を誘ってくれたのです。島での2泊3日は、きっと一生忘れません。具体的な技術や知恵、というよりも、ソーレン

さんご夫妻からもらった大きな刺激。ああ、私も粘り強く取り組み続けよう、と自然に思う事ができました。



さてさて帰国すると、なんとその日に（！）県庁から依頼のあった視察団が訪れ、その晩は知事公邸に呼ばれるというハードスケジュール。その翌日からも来客が続いて、相変わらず賑やかな O2 ファームで、時差ぼけをしている暇もありません（笑）。

12日からは約1週間、福島からお子さん連れのご家族が保養に来て下さっています。これは、昨夏に皆様にカンパをお願いして以来、二転三転しながらなかなか実現できずにいた「福島の子供受け入れプロジェクト」の第一弾！小さなお子様なので、ご家族で来て下さったのですが、同世代で、まるで旧知の友人のようにすぐに仲良くなりま

した。車で福島からいらした分の旅費を、皆さまに頂いたカンパから寄付させて頂きました。とても楽しんで下さったので、また来てくれるはずだし、きっとお友達も紹介してくれるはず。大人にはいろいろな事情があって、どんなに不安でも移住するのは簡単なことではありませんが、せめてお休みの時だけでも、そしてせめてお子さんだけでも、田畑や川で思い切り遊べる南阿蘇で過ごしてもらえよう、受け入れを続けていきたいと思えます。ご協力下さった皆さんには、後日改めてきちんと報告させて頂きますので、しばしお待ちください。



肝心のイネの話が最後になってしまいましたが、今期はすこぶる順調に育てております。私たちが留守にしている間、羽を伸ばしつつもせっせと農作業に励んでいた耕太。畦や用水路の草を切り、イノシシ除けの電柵を設置し、毎日水の管理をし…。その甲斐あってか、無事に花が咲いて受粉をしたイネは、私が帰国した10日までには既に実がついて重くなってきたようで、稲穂が頭をもたげていました。中にはすでに色づき始めているものもあります。左の写真の白いものが、小さな小さなお米の「花」。そうなんです、私も就農前には見た記憶がありませんでした。でも、当たり前といえば当たりのこと。日本人には、お米や田んぼがあまりにも身近すぎて、忘れていたことの一つがこの「花」だったりします。温度が高かったせい、例年より1週間ほど早いようです。

1つご案内です。16日に発売された BRUTUS (ブルータス) という雑誌の表紙は、我が家周辺の村の景色です。我が家の記事も載っていますが、まずはこの風景を全国の皆さんに見て頂けることが何より嬉しいです。これこそが、世界農業遺産に認定された阿蘇の麓の風景だからです。そしてこの風景を守っているのが私たち農家。その事に誇りを持ち続けながら、これからも守ってけるように努力を続けたいと思えます。



さあ、これからの稲刈りまでの心配は、なんといっても台風とイノシシ。来月には無事に新米をお届けできるよう、最後まで気を抜かずに頑張ります。皆さんも夏バテにはどうぞお気を付けください！

